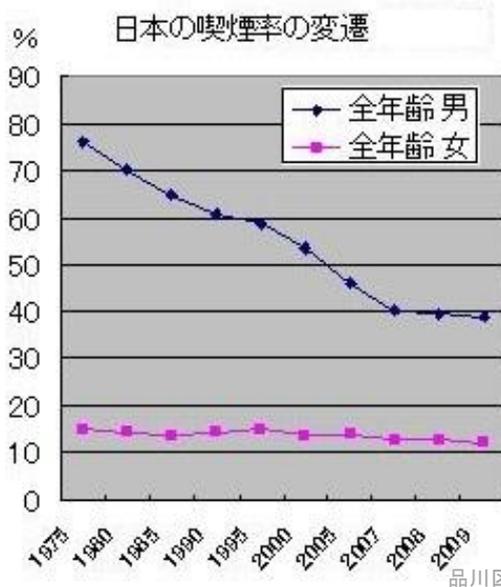


タバコの正体

新しい年を迎え、2017年(平成29年)が始まりました。君たちも一つ歳を積み重ねたので、きっと成長できているはずですが、いかがでしょうか。1年は365日もあるのですが過ぎてしまえば短く感じ、たった1年で何かが大きく変わる事も少ないですから自分では実感できないかもしれませんね。

自分自身の事に限らず身の回りの状況は1年や2年で大きく変わる事は少ないのですが、毎年の積み重ねで10年20年と年月がたてば明らかに違いがわかる事はよくあります。じつは、タバコに対する価値観の変化もその一つです。21世紀生まれの君たちが見ている今の『タバコ』と、20世紀の終盤に育った世代の大人たちが見てきた『タバコ』の違いを少し紹介してみましよう。



未成年者の喫煙は100年以上前から法律¹で禁止されていますが、大人の喫煙に関しては君たちが生まれる少し前の20年前までは、ほぼどこでもOKでした。だから、学校の職員室には灰皿が置かれていてタバコの煙が充満していたこともよくありました。今ではあり得ない光景ですが、タバコはコーヒーやお茶と同じものだという風潮があるほど、多くの大人がタバコの有害性について正しい知識を持っていなかったため、生徒や児童に職員室で受動喫煙させていても気に留める教員がほとんどいなかった時代でした。

しかし、大切な生徒・児童を受動喫煙から守るため、君たちが生まれた直後の2002年に「学校敷地内全面禁煙」が和歌山県で始まりました。この年“受動喫煙防止”が盛り込まれた「健康増進法」という法律ができ、上のグラフにあるように、ようやくタバコの有害性を真剣に考える大人が増えてきたわけです。君たちの親世代が生まれた1975年頃の成人男性の喫煙率は80%近くもあったのに2002年頃には50%を下回っています。ちなみに昨年(2016年)には30%をも下回りました。

また、現在学校と同じくタクシーの車内も禁煙が当たり前ですが10年前はタバコが吸えたのです。あんな狭い空間が煙とニオイで充満している状況なんて信じられない状況ですが、当時は喫煙できるのが当たり前でした。ところが、2007年にタクシーの全面禁煙が大分県で始まったのがきっかけで2011年には全国のタクシーが全面禁煙となりました。

去年と今年を比べても、その差はわからないほど小さいけれど、積み重なれば「あり得ない」とか「信じられない」と思える事が実現するものなのです。それを信じてこの一年も少しずつ積み重ねましよう。

産業デザイン科 奥田 恭久

¹ 未成年者喫煙禁止法(1990年制定)